

厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業））
分担研究報告書

介護サービスの利用と家族介護

研究分担者 田宮菜奈子（筑波大学医学医療系 教授）
野口 晴子（早稲田大学政治経済学術院 教授）
研究協力者 伊藤 智子（筑波大学人間総合科学研究科 博士後期課程）

研究要旨

2000年の介護保険制度導入後、介護サービスの受給は一定の広まりをみせるが、依然、要介護認定を受けても介護保険サービスを利用しない者も多くおり、その背景の一つとして、家族介護のみによって必要な介護が実施されていることが予想される。家族介護負担は、今後の介護施策上の問題であり、その実態の解明は重要な課題である。そこで本研究では、介護サービスと家族介護との関連を明らかにすることを目的とした。分析には平成19年国民生活基礎調査の介護票の結果を用い、分析対象は5,495人であった。対象の要介護度、介護サービス利用、家族介護量、介護内容と介護者を主な変数として、変数間の分布を記述した。その結果、要介護4を除く要介護者において、家族介護量が「一日2～3時間」である対象が各要介護度層で最も訪問系サービスを利用していた。このことから、因果関係は断定できないが、訪問系サービスを多く使うことで、家族介護量は「一日2～3時間」程度になる可能性が考えられた。今後、分析をすすめ、さらなる家族介護の実態を明らかにする必要がある。

A. 研究目的

本研究の目的は、在宅介護における介護サービス利用と家族介護の実態を明らかにすることである。

本邦では2000年の介護保険制度導入により、介護サービスは自己負担額が全体の1割で保険給付されるようになった。この介護保険制度は「介護の社会化」を掲げており、家族介護者の負担軽減は制度目標の一つであったが、実際には、介護サービスを利用している者（受給者）は、平成22年度の介護保険事業状況報告（年報確定版）によると413万人であり、要介護（要支援）

認定者506万人の20%近くがサービスを利用していない。こうした未利用の背景には、費用負担や外部者が自宅へ来ることへの拒否感があると言われており、また、家族介護によって必要な介護がすべて補われている実態があると予想される。しかし、介護保険サービス未利用の背景については、要支援や要介護度1～2などの軽度要介護者に関する報告が主であり、重度要介護者を含んだ要介護者全体における検証は不十分である。

そこで、本研究では全要介護度認定者における介護保険サービスの利用について、

特に家族介護の実態との関係に着目して検証することとした。今回は家族介護の実態として、家族介護者によって行われている介護の量・内容、自己負担額を変数として扱った。

B. 研究方法

(1) 対象

本研究には、平成19年国民生活基礎調査の介護票の結果を用いた。この調査の対象は、平成17年国勢調査区から層化無作為抽出された5,440地区内から、さらに無作為抽出された2,500地区内の要介護者・要支援者6,165人であった。このうち調査票が回収された対象は5,745人であり、集計可能な対象は5,495人であった。本研究は、この5,495人を研究対象とした。

(2) 分析方法

分析に用いた項目は介護票に基づくものであり、要介護者（要支援者）の性別、年齢、要介護度、利用している介護サービスの内容（訪問系サービス、通所系サービス、短期入所サービス）および月当たりの利用日数、家族介護者による介護量、介護内容別の介護者介護サービス利用の月当たりの自己負担総額を変数とした。これらの変数について、要介護度別に分布を記述した。

C. 研究結果

分析対象は5,495人であり、その要介護度別の内訳は、要支援1:13.5%、要支援2:13.9%、要介護1:19.0%、要介護2:17.9%、要介護3:14.1%、要介護4:9.8%、要介護5:7.3%であった(表1)。基本属性は、男性33.2%、女性66.8%であり、平均年齢±標準偏差は81.8±9.2であった(表2)。

訪問系サービスに関しては、要介護度5の対象が介護保険サービスを最も利用しており(43.9%、※表中のOnly public useとBothとの和)、そのうち全額自己負担の介護サービスを併用している対象も全要介護度の中で最も多く、5.3%であった(表3)。一方、通所系サービスに関しては、軽度から中程度の要介護度の対象が介護保険サービス多く利用しており、要介護度1で48.5%(※表中のOnly public useとBothとの和)、要介護度2で51.6%、要介護度3で51.2%の対象が利用していた(表3続き)。短期入所サービスについては、要介護度4の対象のうち27.3%(※表中のOnly public useとBothとの和)が利用しており、全要介護度の中で最も多かった(表3続き)。

家族介護量については、要介護度5の対象のうち48.4%が、主家族介護者によって、「ほぼ一日中」介護が行われていると回答しており、この割合は全要介護度の中で最も多かった(表4)。

介護保険サービスのみを利用している対象において、各サービスの利用日数と家族介護量との関連をみた。訪問系サービスに関しては、要介護度1~3および5の対象において、家族介護量が「一日2~3時間」であった対象が、最も平均利用日数が多かった(表6-1)。

次に、要介護度別に行われている介護内容とその介護の担い手(介護者)との関連をみた。要支援の対象においては、洗顔や口腔保清、身体保清、体位変換、排泄については90%以上の対象が介護の必要無しとなっているのに対し、居室の掃除(要支援1:51.7%、要支援2:40.3%)や洗濯(66.8%、52.0%)、買い物(51.7%、42.5%)、会話相

手（61.8%、50.6%）、食事の準備（52.6%、36.7%）については介護の必要な対象が多くみられた。一方、要介護5の対象において、家族介護者のみよりも事業者のみによる介護が多かった介護内容は、身体保清（家族介護者のみ 20.3%、事業者のみ 33.8%）、洗髪（13.8%、49.6%）、入浴（8.0%、57.6%）、散歩（13.8%、14.8%）であった（表 7-1、7-2、7-3、7-4）。

月当たりの自己負担総額について、要介護度別の平均額±標準偏差（単位千円）は要支援1：0.4±2.0、要支援2：0.6±1.1、要介護1：0.8±1.3、要介護2：1.3±2.0、要介護3：1.9±2.2、要介護4：2.5±4.1、要介護5：2.7±3.7であった（表8）。月当たりの自己負担総額と家族介護量との関連をみると、要支援1において最も自己負担総額の平均額が高かった家族介護量は「ほぼ一日中」であり（平均額0.9千円）、要支援2では「一日2～3時間」（0.9千円）、要介護1では「半日」（1.3千円）、要介護2では「その他」（1.8千円）、要介護3では「その他」（3.1千円）、要介護4では「必要なときに手を貸す程度」（3.4千円）、要介護度5では「半日」（3.2千円）であった。

D. 考察・結論

要介護4を除く要介護者において、家族介護量が「一日2～3時間」である対象が各要介護度層で最も訪問系サービスを利用していた。この結果から、断面調査の限界から因果関係はあくまで推定であるが、訪問系サービスを多く使うことで、家族介護量は「一日2～3時間」程度になる可能性が考えられた。このことは、家族介護量が「ほぼ一日」や「半日」としている対象におい

て、介護サービスの適切な利用により、家族負担を軽減できる可能性を示唆するものである。しかし、介護サービスを利用しない理由によっては、介護サービスの利用促進が望ましくないケースもあると考えられ、今後は介護サービスを利用しない要因をさらに探索していく必要がある。

上述の傾向がみられなかった要介護4の対象においては、家族介護量が「その他」とした対象が最も訪問系サービスを利用していた（月当たり平均利用日数±標準偏差17.1±10.5）。この要介護4の対象にみられた特徴について、要介護4の対象で家族介護量が「その他」の場合は、短期入所サービスの月当たり平均利用日数が23.1日と多く、これは全要介護度の中でNA（データ無し）のケースを除き、最も多い。一方で、介護内容別の介護者の状況では、家族介護者のみによる介護は体位変換を除いたすべての介護内容において、要介護4の対象より介護必要量が多いとされる要介護5の対象よりも多く、要介護4の対象では介護サービスを利用せず家族介護者のみによる介護が多いことが示唆された。これらの結果より、要介護4の対象では、短期入所サービスを多く利用し、ほとんど在宅で療養しないケースがある一方で、家族介護の比重が大きいケースも併在していると考えられる。その併在によって介護サービス利用の傾向が拡散している可能性が考えられ、他の要介護度の対象と区別して検討する必要がある。今後、分析を進め要介護4の対象における傾向を探索していく。

また、要介護度によって必要な介護内容と介護者との違いがみられた。要支援の対象において必要な介護内容とは、居室の掃

除や洗濯、買い物など家事の代行と捉えられるものが多かった。一方で、要介護5においては入浴や保清など、寝たきりの場合に移乗を伴う介護が必要とされていた。またこれらの介護内容は、寝たきりの場合の移乗は家族介護者のみでは困難なため、事業者によって主に行われる傾向があった。利用する介護サービスと家族介護との関連（もしくは比重）を検討する上では、「実際に行われている介護」を同定する必要がある。要介護度は、一定のアルゴリズムによって推定された必要な介護時間に基づいて決定されるが、同時に介護内容においても要介護度による違いがある。したがって、「実際に行われている介護」は要介護度や介護時間だけでなく、介護内容にも着目することが必要であり、本結果は「実際に行われている介護」の量・質を記述し要約した重要な資料になると考えられる。

本研究は介護保険制度導入後、介護サービスの利用と家族介護の実態との関連を、

国民生活基礎調査という全国規模の大規模データによって検証した研究である。介護サービス利用（もしくは未利用）の背景については、要支援や軽要介護度の対象における検証にとどまっており、本研究は全要介護度を対象とした貴重な研究である。そして本研究は、今後の介護政策の焦点となるだろう家族介護の問題に着目し、介護サービス利用の背景として家族介護の実態に焦点をおいている。今後、必要な施策の根拠として寄与できるよう、家族介護の実態を明らかにすべく、さらなる検証が必要である。

E. 研究発表

なし

F. 知的所有権の取得状況の出願・登録状況

該当しない

表 1. 対象の要介護度

Care need level	n	%
Tentative CL	79	1.4
SL1	743	13.5
SL2	765	13.9
CL1	1045	19.0
CL2	983	17.9
CL3	774	14.1
CL4	539	9.8
CL5	399	7.3
NA	168	3.1

Tentative CL: category of care need people who could use services for Care Level people though they were certified as Support Level because of the revision of LTCI system in 2006

SL: Support level, CL: Care Level, NA: Non Available

表 2. 対象の要介護度別の特徴

		Care need level									All	
		Tentative CL	SL1	SL2	CL1	CL2	CL3	CL4	CL5	NA		
Sex	Male	n	26	191	221	312	353	310	201	150	59	1823
		%	32.9	25.7	28.9	29.9	35.9	40.1	37.3	37.6	35.1	33.2
Female		n	53	552	544	733	630	464	338	249	109	3672
		%	67.1	74.3	71.1	70.1	64.1	60.0	62.7	62.4	64.9	66.8
Age	Mean		79.1	81.4	81.2	82.2	82.0	82.2	82.7	82.0	78.1	81.8
	SD		9.9	7.9	9.1	8.7	9.3	9.5	9.1	9.8	12.4	9.2

Tentative CL: category of care need people who could use services for Care Level people though they were certified as Support Level because of the revision of LTCI system in 2006

SL: Support level, CL: Care Level, NA: Non Available, SD: Standard Deviation

表 3. 要介護度別の介護サービス利用状況 (保険利用、全額自己負担)

Covered by Long-Term Care Insurance	Visiting service									
	No		Yes		Both		NA		No use	
Care need level	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
Tentative CL	16	20.3			4	5.1	11	13.9	48	60.8
SL1	154	20.7	4	0.5	25	3.4	121	16.3	439	59.1
SL2	169	22.1	2	0.3	26	3.4	158	20.7	410	53.6
CL1	245	23.4	4	0.4	28	2.7	335	32.1	433	41.4
CL2	226	23.0	3	0.3	24	2.4	329	33.5	401	40.8
CL3	190	24.6	3	0.4	20	2.6	323	41.7	238	30.8
CL4	170	31.5	5	0.9	15	2.8	187	34.7	162	30.1
CL5	153	38.4	2	0.5	21	5.3	120	30.1	103	25.8
NA	19	11.3	1	0.6	3	1.8	29	17.3	116	69.1

Tentative CL: category of care need people who could use services for Care Level people though they were certified as Support Level because of the revision of LTCI system in 2006

SL: Support level, CL: Care Level, NA: Non Available

Covered by Long-Term Care Insurance- Yes: Service use with private payment for the amount over limit of insurance coverage, No: Service use within the coverage of insurance

表 3. (続き)

Covered by Long-Term Care Insurance	Day care									
	No		Yes		Both		NA		No use	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
Care need level										
Tentative CL	20	25.3			2	2.5	2	2.5	55	69.6
SL1	232	31.2	9	1.2	32	4.3	7	0.9	463	62.3
SL2	296	38.7	2	0.3	27	3.5	9	1.2	431	56.3
CL1	464	44.4	11	1.1	43	4.1	18	1.7	509	48.7
CL2	467	47.5	4	0.4	40	4.1	17	1.7	455	46.3
CL3	362	46.8	6	0.8	33	4.3	8	1.0	365	47.2
CL4	228	42.3	7	1.3	17	3.2	6	1.1	281	52.1
CL5	110	27.6			7	1.8	4	1.0	278	69.7
NA	21	12.5	1	0.6	6	3.6	5	3.0	135	80.4

Covered by Long-Term Care Insurance	Short term stay									
	No		Yes		Both		NA		No use	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
Care need level										
Tentative CL							1	1.3	78	98.7
SL1	8	1.1							735	98.9
SL2	21	2.8	2	0.3	3	0.4	1	0.1	738	96.5
CL1	49	4.7	3	0.3	10	1.0	4	0.4	979	93.7
CL2	84	8.6	4	0.4	9	0.9	4	0.4	882	89.7
CL3	129	16.7	2	0.3	10	1.3	7	0.9	626	80.9
CL4	137	25.4	5	0.9	10	1.9	5	0.9	382	70.9
CL5	74	18.6	5	1.3	3	0.8	1	0.3	316	79.2
NA	3	1.8	1	0.6			1	0.6	163	97.0

Tentative CL: category of care need people who could use services for Care Level people though they were certified as Support Level because of the revision of LTCI system in 2006

SL: Support level, CL: Care Level, NA: Non Available

Covered by Long-Term Care Insurance- Yes: Service use with private payment for the amount over limit of insurance coverage, No: Service use within the coverage of insurance

表 4. 要介護度別の家族介護量

Care need level	Amount of family caregiving											
	Almost all a day		Half a day		2-3 hours		Sometimes		Others		NA	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
Tentative CL	6	7.6	2	2.5	4	5.1	34	43.0	24	30.4	9	11.4
SL1	24	3.2	23	3.1	48	6.5	287	38.6	253	34.1	108	14.5
SL2	54	7.1	31	4.1	69	9.0	307	40.1	226	29.5	78	10.2
CL1	120	11.5	52	5.0	123	11.8	433	41.4	221	21.2	96	9.2
CL2	181	18.4	94	9.6	161	16.4	340	34.6	114	11.6	93	9.5
CL3	241	31.1	116	15.0	109	14.1	164	21.2	69	8.9	75	9.7
CL4	212	39.3	78	14.5	83	15.4	49	9.1	45	8.4	72	13.4
CL5	193	48.4	54	13.5	28	7.0	19	4.8	34	8.5	71	17.8
NA	13	7.7	8	4.8	16	9.5	35	20.8	31	18.5	65	38.7

Tentative CL: category of care need people who could use services for Care Level people though they were certified as Support Level because of the revision of LTCI system in 2006

SL: Support level, CL: Care Level, NA: Non Available

表 5. 要介護度別の介護サービス利用（保険利用、全額自己負担）と利用日数

Visiting service	Covered by Long-Term Care Insurance																				
	Total use (= Yes + No)							No							Yes						
	Mean	SD	Min	25%tile	Median	75%tile	Max	Mean	SD	Min	25%tile	Median	75%tile	Max	Mean	SD	Min	25%tile	Median	75%tile	Max
Use days per month																					
Care need level																					
Tentative CL	8.2	6.2	2	4	5	12	24	7.2	4.4	1	4	6	9.5	18	1.2	3.3	0	0	0	0	12
SL1	7.4	6.2	1	4	5	8	60	6.2	4.2	0	4	5	8	30	1.2	4.2	0	0	0	0	30
SL2	8.7	7.1	1	4	8	10	62	7.7	5.4	0	4	7	9	31	1.0	3.4	0	0	0	0	31
CL1	11.3	8.8	1	5	8	15	62	10.3	7.7	0	4	8	13	31	1.0	3.8	0	0	0	0	31
CL2	11.7	9.4	1	4	8	15	50	10.7	8.3	0	4	8	15	31	0.9	3.6	0	0	0	0	25
CL3	14.0	10.7	1	4	10	23	51	12.8	9.8	0	4	9	21	31	1.1	4.3	0	0	0	0	30
CL4	13.8	11.3	1	5	10	21	62	12.8	10.0	0	4	9	20	31	1.0	4.2	0	0	0	0	31
CL5	16.3	11.8	1	7	14	24	62	14.7	9.9	0	6	13	23	31	1.5	5.4	0	0	0	0	31
NA	10.0	6.3	1	5	8	13	27	9.4	6.6	0	4	8	13	27	0.6	1.5	0	0	0	0	6

Day care	Covered by Long-Term Care Insurance																				
	Total use (= Yes + No)							No							Yes						
	Mean	SD	Min	25%tile	Median	75%tile	Max	Mean	SD	Min	25%tile	Median	75%tile	Max	Mean	SD	Min	25%tile	Median	75%tile	Max
Use days per month																					
Care need level																					
Tentative CL	6.1	3.8	1	4	4.5	9	16	5.6	3.1	1	4	4.5	8	11	0.5	1.7	0	0	0	0	8
SL1	6.3	4.1	0	4	5	8	24	5.6	3.6	0	4	4	8	24	0.7	2.0	0	0	0	0	12
SL2	7.5	4.3	1	4	8	9	25	6.9	3.8	0	4	8	8	25	0.6	2.1	0	0	0	0	17
CL1	9.1	5.6	0	4	8	12	30	8.4	5.2	0	4	8	11	27	0.7	2.5	0	0	0	0	15
CL2	10.2	6.0	1	6	9	13	30	9.5	5.4	0	5	9	13	30	0.7	2.7	0	0	0	0	21
CL3	10.7	6.3	1	6	9	13	31	10.0	6.1	0	5	9	13	31	0.7	2.8	0	0	0	0	27
CL4	9.9	6.5	1	5	8.5	13	30	9.3	6.3	0	4	8	12	30	0.7	2.6	0	0	0	0	23
CL5	10.1	7.0	1	5	8	13	31	9.8	7.0	1	5	8	13	31	0.3	1.3	0	0	0	0	9
NA	10.8	6.3	1	6.5	9.5	16	23	9.1	6.4	0	4	8	12	23	1.7	3.5	0	0	0	1	12

Short term stay	Covered by Long-Term Care Insurance																				
	Total use (= Yes + No)							No							Yes						
	Mean	SD	Min	25%tile	Median	75%tile	Max	Mean	SD	Min	25%tile	Median	75%tile	Max	Mean	SD	Min	25%tile	Median	75%tile	Max
Use days per month																					
Care need level																					
Tentative CL	12.1	12.3	1	2.5	8.5	21.5	31	12.1	12.3	1	2.5	8.5	21.5	31	0.0	0.0	0	0	0	0	0
SL1	13.6	11.0	1	4	10	22	31	12.5	11.2	0	3	9	22	31	1.1	2.6	0	0	0	0	8
CL1	11.2	8.9	1	4	9.5	15	31	9.2	8.2	0	3	6.5	12	31	2.0	5.9	0	0	0	0	31
CL2	11.0	9.1	1	4	8	14	31	10.4	8.9	0	4	7	14	31	0.6	1.6	0	0	0	0	7
CL3	12.3	9.7	1	4	8	16	31	11.6	9.6	0	4	8	15	31	0.7	3.2	0	0	0	0	30
CL4	13.8	9.4	1	7	12	19	31	12.8	9.5	0	5	10	17.5	31	0.9	3.8	0	0	0	0	31
CL5	12.9	9.5	0	5	11	17	31	12.1	9.5	0	4	10.5	16	31	0.9	4.1	0	0	0	0	31
NA	17.3	13.8	3	5.5	17.5	29	31	15.3	16.0	0	1.5	15	29	31	2.0	4.0	0	0	0	4	8

Tentative CL: category of care need people who could use services for Care Level people though they were certified as Support Level because of the revision of LTCL system in 2006

SL: Support level, CL: Care Level, NA: Non Available, SD: Standard Deviation

Covered by Long-Term Care Insurance- Yes: Service use with private payment for the amount over limit of insurance coverage, No: Service use within the coverage of insurance

表6-1. 要介護度別の訪問系サービス利用日数と家族介護量（保険利用のみ）

Visiting service		Service covered only by insurance						
Use days per month		Mean	SD	Min	25%tile	Median	75%tile	Max
Care need level	Amount of family caregiving							
Tentative CL	Almost all a day	8.5	0.7	8	8	9	9	9
	Half a day							
	2-3 hours	3.0	1.4	2	2	3	4	4
	Sometimes	7.3	3.6	4	5	7	10	12
	Others	7.9	5.2	1	4	7	12	18
SL1	NA	4.0		4	4	4	4	4
	Almost all a day	11.6	9.6	4	5	8	19	30
	Half a day	5.6	1.5	4	5	5	6	8
	2-3 hours	7.5	6.2	0	4	8	9	21
	Sometimes	5.5	5.2	0	3	4	8	30
SL2	Others	6.2	2.5	1	4	5	8	12
	NA	5.2	2.6	1	4	4	7	12
	Almost all a day	9.5	4.7	3	7	8	14	16
	Half a day	6.5	2.0	4	5	7	8	9
	2-3 hours	10.9	8.0	0	4	9	14	31
CL1	Sometimes	6.6	4.2	1	4	5	9	20
	Others	6.5	3.8	0	4	5	8	24
	NA	12.8	8.5	2	8	12	13	31
	Almost all a day	6.0	7.0	0	2	5	7	30
	Half a day	10.7	8.8	1	7	8	11	31
CL2	2-3 hours	16.4	10.0	0	8	15	27	31
	Sometimes	8.7	6.8	0	4	8	12	31
	Others	8.6	4.4	0	5	8	12	23
	NA	9.6	6.7	2	4	8	12	23
	Almost all a day	8.2	7.8	1	4	4	10	31
CL3	Half a day	8.8	5.0	2	5	8	11	20
	2-3 hours	14.7	9.7	0	6	12	24	31
	Sometimes	9.7	8.1	1	4	8	14	31
	Others	9.3	5.5	2	5	8	12	27
	NA	8.2	3.8	2	8	9	10	12
CL4	Almost all a day	10.6	9.1	1	4	8	16	31
	Half a day	12.4	9.5	1	4	10	21	31
	2-3 hours	18.4	9.9	0	8	20	27	31
	Sometimes	11.1	9.2	0	4	8	16	31
	Others	7.7	7.3	1	2	5	12	30
CL5	NA	11.2	6.7	2	4	14	16	18
	Almost all a day	11.1	9.4	0	3	8	18	31
	Half a day	11.5	9.7	0	4	8	17	31
	2-3 hours	14.3	10.0	1	5	13	20	31
	Sometimes	14.8	10.5	1	6	16	23	31
NA	Others	17.1	10.5	1	9	16	30	31
	NA	23.7	12.7	9	9	31	31	31
	Almost everyday	15.0	9.4	0	8	13	23	31
	2-4 days per week	14.7	11.0	0	4	14	24	31
	1 day per week	19.6	11.5	1	8	22	30	31
NA	1-3 days per month	5.7	5.3	2	4	4	5	20
	Others	13.5	9.3	4	9	12	14	31
	NA	10.0		10	10	10	10	10
	Almost everyday	8.0	6.5	2	4	7	13	17
	2-4 days per week	2.0		2	2	2	2	2
NA	1 day per week	12.4	9.3	0	8	8	22	27
	1-3 days per month	10.0	5.7	6	6	10	14	14
	Others	7.2	4.6	2	4	6	12	13
	NA	10.7	1.2	10	10	10	12	12

Tentative CL: category of care need people who could use services for Care Level people though they were certified as Support Level because of the revision of LTCI system in 2006

SL: Support level, CL: Care Level, NA: Non Available, SD: Standard Deviation

表6-2. 要介護度別の通所系サービス利用日数と家族介護量（保険利用のみ）

Day care		Service covered only by insurance						
Use days per month		Mean	SD	Min	25%tile	Median	75%tile	Max
Tentative CL	Amount of family caregiving							
	Almost all a day	6.0	2.8	4	4	6	8	8
	Half a day							
	2-3 hours	4.0		4	4	4	4	4
	Sometimes	6.6	3.4	1	4	8	9	11
SL1	Others	4.0	2.2	1	2	4	5	8
	NA							
	Almost all a day	8.9	6.3	3	4	7	14	20
	Half a day	7.8	4.7	2	4	7	11	18
	2-3 hours	7.5	6.0	2	3	6	9	24
SL2	Sometimes	5.6	3.2	0	4	5	8	18
	Others	5.1	3.0	0	4	4	5	20
	NA	3.9	2.1	0	4	4	5	9
	Almost all a day	8.9	4.5	1	8	9	10	20
	Half a day	6.5	2.3	3	4	8	8	10
CL1	2-3 hours	7.0	4.8	2	4	5	8	25
	Sometimes	6.9	3.6	0	4	8	9	20
	Others	6.4	3.5	1	4	5	8	24
	NA	5.9	3.7	0	2	8	9	10
	Almost all a day	8.3	6.2	0	4	8	12	25
CL2	Half a day	8.6	5.6	2	4	8	12	22
	2-3 hours	10.0	6.0	0	5	9	13	24
	Sometimes	8.6	4.7	0	5	8	11	27
	Others	6.6	4.3	0	4	6	9	27
	NA	8.8	6.0	1	4	9	12	25
CL3	Almost all a day	9.7	5.7	0	5	8	13	27
	Half a day	11.4	6.3	0	7	11	15	30
	2-3 hours	9.5	5.8	0	5	8	13	23
	Sometimes	9.5	5.0	0	6	9	13	30
	Others	7.6	4.0	2	4	8	10	18
CL4	NA	7.9	3.4	1	6	8	9	15
	Almost all a day	10.2	6.2	0	5	9	14	31
	Half a day	12.6	6.9	2	8	12	18	30
	2-3 hours	10.0	6.4	0	5	9	13	27
	Sometimes	8.5	4.9	0	5	8	12	26
CL5	Others	7.9	4.3	0	4	9	12	14
	NA	9.1	4.1	2	6	10	12	15
	Almost all a day	8.3	5.6	0	4	8	11	26
	Half a day	10.4	7.5	0	4	8	15	30
	2-3 hours	11.4	6.9	3	5	9	16	30
NA	Sometimes	9.2	5.6	0	6	8	12	26
	Others	6.9	3.3	2	4	7	10	12
	NA	6.0	5.8	1	4	4	5	16
	Almost everyday	9.7	6.8	1	5	8	13	31
	2-4 days per week	11.9	7.6	1	7	10	17	30
NA	1 day per week	8.0	5.9	2	5	6	11	20
	1-3 days per month	7.6	9.3	2	3	5	7	30
	Others	7.7	5.1	2	2	9	12	12
	NA	9.0		9	9	9	9	9
	Almost everyday	18.0	7.1	13	13	18	23	23
NA	2-4 days per week	8.7	6.8	2	4	7	12	20
	1 day per week	11.0	1.4	10	10	11	12	12
	1-3 days per month	7.3	6.5	1	2	8	9	20
	Others	8.3	6.4	0	5	8	10	22
	NA	9.0	6.6	3	3	8	16	16

Tentative CL: category of care need people who could use services for Care Level people though they were certified as Support Level because of the revision of LTCI system in 2006

SL: Support level, CL: Care Level, NA: Non Available, SD: Standard Deviation

表 6 - 3. 要介護度別の短期入所利用日数と家族介護量 (保険利用のみ)

Care need level	Short term stay Use days per month	Service covered only by insurance						
		Mean	SD	Min	25%tile	Median	75%tile	Max
Tentative CL	Amount of family caregiving							
	Almost all a day							
	Half a day							
	2-3 hours							
	Sometimes							
	Others							
SL1	NA							
	Almost all a day							
	Half a day	22.0	15.6	4	4	31	31	31
	2-3 hours	7.0		7	7	7	7	7
	Sometimes	7.7	5.9	1	1	10	12	12
	Others	1.0		1	1	1	1	1
SL2	NA							
	Almost all a day	22.7	8.0	15	15	22	31	31
	Half a day							
	2-3 hours	3.2	4.0	0	1	2	3	10
	Sometimes	11.8	9.8	3	4	9	15	31
	Others	18.3	13.3	1	5	21	31	31
CL1	NA							
	Almost all a day	7.6	7.9	0	2	4	12	30
	Half a day	9.9	8.1	0	3	10	14	25
	2-3 hours	8.3	2.3	7	7	7	11	11
	Sometimes	10.1	9.4	0	4	6	13	31
	Others	9.9	6.2	1	5	12	14	19
CL2	NA							
	Almost all a day	2.0		2	2	2	2	2
	Almost all a day	10.9	10.0	0	4	7	15	31
	Half a day	7.5	4.3	2	5	6	10	14
	2-3 hours	10.4	8.8	0	4	7	14	30
	Sometimes	7.6	5.9	0	3	7	10	19
CL3	Others	18.0	11.7	1	7	24	30	31
	NA	13.5	14.9	3	3	14	24	24
	Almost all a day	9.1	9.1	0	3	6	11	31
	Half a day	7.6	5.6	2	3	7	12	27
	2-3 hours	12.6	7.5	4	6	14	16	28
	Sometimes	13.0	10.1	3	4	10	20	31
CL4	Others	22.3	9.4	2	19	22	31	31
	NA	30.5	0.7	30	30	31	31	31
	Almost all a day	11.7	8.7	0	4	10	15	31
	Half a day	9.4	5.7	2	4	9	14	25
	2-3 hours	11.0	8.8	0	5	8	16	31
	Sometimes	9.8	8.1	0	4	7	15	25
CL5	Others	23.1	9.9	2	17	29	31	31
	NA	27.4	6.4	16	29	30	31	31
	Almost everyday	10.2	8.5	0	3	9	14	31
	2-4 days per week	9.9	5.9	2	5	9	14	20
	1 day per week	12.5	8.4	3	7	13	15	30
	1-3 days per month	5.7	4.6	3	3	3	11	11
NA	Others	21.4	11.5	7	10	31	31	31
	NA	24.5	13.0	5	18	31	31	31
	Almost everyday	15.5	21.9	0	0	16	31	31
	2-4 days per week	3.0		3	3	3	3	3
	1 day per week							
	1-3 days per month	27.0		27	27	27	27	27
	Others							
	NA							

Tentative CL: category of care need people who could use services for Care Level people though they were certified as Support Level because of the revision of LTCI system in 2006

SL: Support level, CL: Care Level, NA: Non Available, SD: Standard Deviation

表 7-1. 要介護度別の介護内容と介護者

	Care need level																	
	Tentative CL		SL1		SL2		CL1		CL2		CL3		CL4		CL5		NA	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
Keep face clean																		
No care	71	89.9	722	97.2	722	94.4	938	89.8	789	80.3	440	56.9	180	33.4	101	25.3	143	85.1
P+MF+SF			1	0.1			1	0.1	1	0.1	5	0.7	4	0.7	8	2.0	1	0.6
P			8	1.1	5	0.7	25	2.4	62	6.3	95	12.3	89	16.5	78	19.6	7	4.2
P+MF					3	0.4	9	0.9	8	0.8	26	3.4	42	7.8	52	13.0		
P+SF									1	0.1			3	0.6	3	0.8		
MF	6	7.6	10	1.4	30	3.9	62	5.9	109	11.1	191	24.7	194	36.0	134	33.6	17	10.1
MF+SF							4	0.4	4	0.4	7	0.9	17	3.2	17	4.3		
SF	2	2.5	1	0.1	5	0.7	6	0.6	9	0.9	9	1.2	10	1.9	4	1.0		
Others			1	0.1							1	0.1			2	0.5		
Keep oral clean																		
No care	73	92.4	724	97.4	727	95.0	933	89.3	768	78.1	435	56.2	177	32.8	109	27.3	144	85.7
P+MF+SF									1	0.1	3	0.4	6	1.1	3	0.8	1	0.6
P	1	1.3	7	0.9	8	1.1	38	3.6	75	7.6	104	13.4	97	18.0	82	20.6	5	3.0
P+MF							9	0.9	9	0.9	28	3.6	42	7.8	44	11.0		
P+SF									1	0.1			2	0.4	5	1.3		
MF	4	5.1	9	1.2	25	3.3	55	5.3	117	11.9	189	24.4	187	34.7	127	31.8	18	10.7
MF+SF							3	0.3	3	0.3	4	0.5	14	2.6	18	4.5		
SF			1	0.1	5	0.7	4	0.4	8	0.8	8	1.0	10	1.9	2	0.5		
Others	1	1.3	2	0.3			3	0.3	1	0.1	3	0.4	4	0.7	9	2.3		
Keep body clean																		
No care	65	82.3	681	91.7	641	83.8	760	72.7	557	56.7	290	37.5	142	26.4	94	23.6	137	81.6
P+MF+SF							5	0.5	4	0.4	3	0.4	10	1.9	7	1.8		
P	2	2.5	24	3.2	48	6.3	126	12.1	179	18.2	231	29.8	183	34.0	135	33.8	9	5.4
P+MF			4	0.5	3	0.4	25	2.4	43	4.4	50	6.5	42	7.8	59	14.8	1	0.6
P+SF							1	0.1	2	0.2	2	0.3	1	0.2	2	0.5	1	0.6
MF	10	12.7	26	3.5	61	8.0	105	10.1	174	17.7	179	23.1	138	25.6	81	20.3	18	10.7
MF+SF					4	0.5	2	0.2	6	0.6	8	1.0	10	1.9	12	3.0		
SF	1	1.3	6	0.8	7	0.9	13	1.2	11	1.1	7	0.9	9	1.7	1	0.3	1	0.6
Others	1	1.3	2	0.3	1	0.1	8	0.8	7	0.7	4	0.5	4	0.7	8	2.0	1	0.6
Keep hair clean																		
No care	63	79.8	644	86.7	575	75.2	680	65.1	463	47.1	236	30.5	148	27.5	102	25.6	135	80.4
P+MF+SF							2	0.2	1	0.1	2	0.3	4	0.7	4	1.0		
P	3	3.8	34	4.6	79	10.3	211	20.2	285	29.0	331	42.8	251	46.6	198	49.6	14	8.3
P+MF			5	0.7	10	1.3	22	2.1	28	2.9	32	4.1	17	3.2	22	5.5		
P+SF			1	0.1			2	0.2	4	0.4	1	0.1			1	0.3		
MF	11	13.9	44	5.9	82	10.7	101	9.7	174	17.7	142	18.4	97	18.0	55	13.8	14	8.3
MF+SF			1	0.1	4	0.5	3	0.3	6	0.6	8	1.0	3	0.6	6	1.5		
SF	1	1.3	8	1.1	10	1.3	15	1.4	15	1.5	16	2.1	16	3.0	4	1.0	3	1.8
Others	1	1.3	6	0.8	5	0.7	9	0.9	7	0.7	6	0.8	3	0.6	7	1.8	2	1.2
All	79		743		765		1045		983		774		539		399		168	

P: Professional caregiver who is employed, MF: Main-family caregiver, SF: Sub-family caregiver

Tentative CL: category of care need people who could use services for Care Level people though they were certified as

SL: Support level, CL: Care Level, NA: Non Available

表 7-2. 要介護度別の介護内容と介護者

	Care need level																	
	Tentative CL		SL1		SL2		CL1		CL2		CL3		CL4		CL5		NA	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
Clothing																		
No care	70	88.6	689	92.7	664	86.8	799	76.5	557	56.7	275	35.5	119	22.1	81	20.3	130	77.4
P+MF+SF			1	0.1			5	0.5	8	0.8	16	2.1	19	3.5	19	4.8		
P			8	1.1	11	1.4	47	4.5	78	7.9	114	14.7	92	17.1	83	20.8	9	5.4
P+MF			2	0.3	7	0.9	27	2.6	56	5.7	77	10.0	69	12.8	80	20.1	2	1.2
P+SF									6	0.6	1	0.1	4	0.7	2	0.5	1	0.6
MF	7	8.9	36	4.9	73	9.5	147	14.1	259	26.4	259	33.5	202	37.5	108	27.1	22	13.1
MF+SF	1	1.3	2	0.3	3	0.4	6	0.6	12	1.2	22	2.8	26	4.8	20	5.0		
SF	1	1.3	4	0.5	6	0.8	13	1.2	7	0.7	9	1.2	8	1.5	3	0.8	3	1.8
Others			1	0.1	1	0.1	1	0.1			1	0.1			3	0.8	1	0.6
Bathing																		
No care	60	76.0	604	81.3	492	64.3	554	53.0	335	34.1	179	23.1	135	25.1	102	25.6	117	69.6
P+MF+SF							5	0.5	3	0.3	3	0.4	4	0.7	1	0.3		
P	6	7.6	60	8.1	106	13.9	277	26.5	332	33.8	370	47.8	279	51.8	230	57.6	24	14.3
P+MF			8	1.1	16	2.1	34	3.3	50	5.1	45	5.8	20	3.7	16	4.0		
P+SF			2	0.3	1	0.1	4	0.4	4	0.4	3	0.4			2	0.5		
MF	9	11.4	56	7.5	124	16.2	141	13.5	222	22.6	140	18.1	73	13.5	32	8.0	21	12.5
MF+SF	2	2.5			8	1.1	5	0.5	10	1.0	10	1.3	9	1.7	5	1.3	1	0.6
SF			9	1.2	11	1.4	13	1.2	18	1.8	13	1.7	13	2.4	5	1.3	3	1.8
Others	2	2.5	4	0.5	7	0.9	12	1.2	9	0.9	11	1.4	6	1.1	6	1.5	2	1.2
Changing position																		
No care	75	94.9	722	97.2	730	95.4	965	92.3	841	85.6	531	68.6	226	41.9	102	25.6	148	88.1
P+MF+SF							1	0.1	1	0.1	8	1.0	14	2.6	14	3.5		
P			7	0.9	5	0.7	18	1.7	35	3.6	50	6.5	66	12.2	68	17.0	6	3.6
P+MF					1	0.1	2	0.2	7	0.7	16	2.1	46	8.5	63	15.8	2	1.2
P+SF										1	0.1	1	0.2	2	0.5	1	0.6	
MF	3	3.8	9	1.2	25	3.3	51	4.9	81	8.2	144	18.6	152	28.2	118	29.6	10	6.0
MF+SF			2	0.3			2	0.2	6	0.6	14	1.8	24	4.5	23	5.8	1	0.6
SF			2	0.3	4	0.5	3	0.3	6	0.6	6	0.8	5	0.9	1	0.3		
Others	1	1.3	1	0.1			3	0.3	6	0.6	4	0.5	5	0.9	8	2.0		
Elimination																		
No care	74	93.7	703	94.6	699	91.4	896	85.7	697	70.9	337	43.5	128	23.8	81	20.3	136	81.0
P+MF+SF			1	0.1			5	0.5	7	0.7	19	2.5	23	4.3	23	5.8		
P			7	0.9	7	0.9	29	2.8	70	7.1	92	11.9	93	17.3	75	18.8	9	5.4
P+MF			2	0.3	4	0.5	18	1.7	38	3.9	83	10.7	81	15.0	83	20.8	2	1.2
P+SF									1	0.1	2	0.3	2	0.4	2	0.5	1	0.6
MF	3	3.8	21	2.8	49	6.4	86	8.2	155	15.8	215	27.8	184	34.1	105	26.3	17	10.1
MF+SF			2	0.3	1	0.1	3	0.3	9	0.9	14	1.8	21	3.9	26	6.5	3	1.8
SF	2	2.5	6	0.8	5	0.7	6	0.6	6	0.6	11	1.4	7	1.3	2	0.5		
Others			1	0.1			2	0.2			1	0.1			2	0.5		
All	79		743		765		1045		983		774		539		399		168	

P: Professional caregiver who is employed, MF: Main-family caregiver, SF: Sub-family caregiver

Tentative CL: category of care need people who could use services for Care Level people though they were certified as

SL: Support level, CL: Care Level, NA: Non Available

表 7-3. 要介護度別の介護内容と介護者

	Care need level																	
	Tentative CL		SL1		SL2		CL1		CL2		CL3		CL4		CL5		NA	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
Meal																		
No care	61	77.2	693	93.3	675	88.2	860	82.3	700	71.2	438	56.6	210	39.0	101	25.3	139	82.7
P+MF+SF			1	0.1	1	0.1	1	0.1	8	0.8	13	1.7	19	3.5	11	2.8		
P	2	2.5	13	1.8	7	0.9	32	3.1	52	5.3	63	8.1	63	11.7	62	15.5	7	4.2
P+MF	1	1.3	1	0.1	5	0.7	20	1.9	27	2.8	33	4.3	53	9.8	50	12.5	1	0.6
P+SF					1	0.1			1	0.1	2	0.3	1	0.2	1	0.3		
MF	12	15.2	23	3.1	69	9.0	116	11.1	172	17.5	203	26.2	158	29.3	136	34.1	17	10.1
MF+SF			3	0.4	1	0.1	8	0.8	12	1.2	9	1.2	20	3.7	31	7.8	2	1.2
SF	3	3.8	6	0.8	5	0.7	5	0.5	7	0.7	8	1.0	11	2.0	3	0.8	2	1.2
Others			3	0.4	1	0.1	3	0.3	4	0.4	5	0.7	4	0.7	4	1.0		
Drug assumption																		
No care	67	84.8	640	86.1	608	79.5	652	62.4	456	46.4	254	32.8	149	27.6	95	23.8	129	76.8
P+MF+SF			1	0.1			4	0.4	9	0.9	20	2.6	12	2.2	6	1.5		
P			11	1.5	8	1.1	57	5.5	78	7.9	94	12.1	69	12.8	63	15.8	10	6.0
P+MF	1	1.3	2	0.3	3	0.4	24	2.3	38	3.9	54	7.0	43	8.0	42	10.5	1	0.6
P+SF								2	0.2	1	0.1	3	0.6	1	0.3			
MF	8	10.1	76	10.2	129	16.9	267	25.6	358	36.4	314	40.6	222	41.2	157	39.4	23	13.7
MF+SF			3	0.4	4	0.5	19	1.8	23	2.3	23	3.0	28	5.2	26	6.5	2	1.2
SF	3	3.8	6	0.8	12	1.6	15	1.4	15	1.5	8	1.0	8	1.5	3	0.8	3	1.8
Others			4	0.5	1	0.1	7	0.7	4	0.4	6	0.8	5	0.9	6	1.5		
Stroll																		
No care	66	83.5	650	87.5	614	80.3	770	73.7	607	61.8	407	52.6	299	55.5	253	63.4	146	86.9
P+MF+SF					1	0.1	2	0.2	5	0.5	6	0.8	6	1.1	3	0.8		
P	4	5.1	15	2.0	31	4.1	85	8.1	110	11.2	143	18.5	89	16.5	59	14.8	9	5.4
P+MF	2	2.5	2	0.3	8	1.1	14	1.3	24	2.4	28	3.6	17	3.2	12	3.0		
P+SF								2	0.2			2	0.4					
MF	6	7.6	57	7.7	90	11.8	139	13.3	208	21.2	167	21.6	98	18.2	55	13.8	11	6.6
MF+SF	1	1.3	2	0.3	6	0.8	10	1.0	9	0.9	9	1.2	12	2.2	6	1.5		
SF			11	1.5	12	1.6	18	1.7	12	1.2	9	1.2	9	1.7	4	1.0		
Others			6	0.8	3	0.4	7	0.7	6	0.6	5	0.7	7	1.3	7	1.8	2	1.2
Clean a room																		
No care	40	50.6	384	51.7	308	40.3	347	33.2	271	27.6	196	25.3	147	27.3	128	32.1	112	66.7
P+MF+SF					2	0.3	4	0.4	2	0.2	6	0.8	4	0.7	1	0.3		
P	11	13.9	150	20.2	132	17.3	210	20.1	165	16.8	139	18.0	86	16.0	66	16.5	16	9.5
P+MF			6	0.8	16	2.1	29	2.8	31	3.2	26	3.4	21	3.9	24	6.0		
P+SF					3	0.4	3	0.3	5	0.5	2	0.3	1	0.2	1	0.3		
MF	25	31.7	165	22.2	269	35.2	378	36.2	448	45.6	353	45.6	236	43.8	142	35.6	27	16.1
MF+SF	1	1.3	5	0.7	12	1.6	32	3.1	26	2.6	25	3.2	23	4.3	27	6.8	4	2.4
SF	2	2.5	17	2.3	17	2.2	27	2.6	24	2.4	18	2.3	17	3.2	5	1.3	5	3.0
Others			16	2.2	6	0.8	15	1.4	11	1.1	9	1.2	4	0.7	5	1.3	4	2.4
All	79		743		765		1045		983		774		539		399		168	

P: Professional caregiver who is employed, MF: Main-family caregiver, SF: Sub-family caregiver

Tentative CL: category of care need people who could use services for Care Level people though they were certified as

SL: Support level, CL: Care Level, NA: Non Available

表 7-4. 要介護度別の介護内容と介護者

	Care need level																	
	Tentative CL		SL1		SL2		CL1		CL2		CL3		CL4		CL5		NA	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
Laundry																		
No care	52	65.8	496	66.8	398	52.0	438	41.9	293	29.8	184	23.8	126	23.4	102	25.6	117	69.6
P+MF+SF																		
P	3	3.8	36	4.9	53	6.9	98	9.4	113	11.5	106	13.7	71	13.2	53	13.3	9	5.4
P+MF			2	0.3	10	1.3	20	1.9	25	2.5	17	2.2	18	3.3	22	5.5		
P+SF									3	0.3	2	0.3			1	0.3		
MF	23	29.1	178	24.0	269	35.2	420	40.2	492	50.1	394	50.9	273	50.7	177	44.4	30	17.9
MF+SF			5	0.7	14	1.8	30	2.9	24	2.4	29	3.8	24	4.5	21	5.3	3	1.8
SF			13	1.8	18	2.4	25	2.4	23	2.3	27	3.5	19	3.5	12	3.0	6	3.6
Others	1	1.3	13	1.8	3	0.4	13	1.2	9	0.9	9	1.2	6	1.1	4	1.0	3	1.8
Shopping																		
No care	35	44.3	384	51.7	325	42.5	371	35.5	300	30.5	218	28.2	163	30.2	143	35.8	107	63.7
P+MF+SF																		
P	6	7.6	72	9.7	73	9.5	135	12.9	104	10.6	93	12.0	57	10.6	46	11.5	11	6.6
P+MF			3	0.4	13	1.7	21	2.0	24	2.4	15	1.9	11	2.0	9	2.3	2	1.2
P+SF					1	0.1	2	0.2	6	0.6	2	0.3	1	0.2	1	0.3		
MF	31	39.2	228	30.7	300	39.2	415	39.7	466	47.4	365	47.2	238	44.2	150	37.6	35	20.8
MF+SF	3	3.8	16	2.2	26	3.4	48	4.6	44	4.5	35	4.5	36	6.7	28	7.0	4	2.4
SF	3	3.8	24	3.2	25	3.3	40	3.8	29	3.0	32	4.1	27	5.0	15	3.8	8	4.8
Others	1	1.3	16	2.2	1	0.1	13	1.2	9	0.9	8	1.0	5	0.9	5	1.3	1	0.6
Chat																		
No care	42	53.2	459	61.8	387	50.6	436	41.7	297	30.2	183	23.6	141	26.2	113	28.3	107	63.7
P+MF+SF	1	1.3	5	0.7	13	1.7	33	3.2	39	4.0	47	6.1	36	6.7	23	5.8	2	1.2
P	6	7.6	36	4.9	47	6.1	113	10.8	98	10.0	103	13.3	54	10.0	43	10.8	8	4.8
P+MF	3	3.8	16	2.2	30	3.9	81	7.8	102	10.4	96	12.4	72	13.4	62	15.5	5	3.0
P+SF			1	0.1	3	0.4	4	0.4	8	0.8	4	0.5	2	0.4	2	0.5		
MF	21	26.6	171	23.0	226	29.5	297	28.4	363	36.9	278	35.9	181	33.6	115	28.8	34	20.2
MF+SF	2	2.5	27	3.6	36	4.7	43	4.1	49	5.0	42	5.4	41	7.6	32	8.0	3	1.8
SF	2	2.5	22	3.0	17	2.2	28	2.7	18	1.8	14	1.8	8	1.5	3	0.8	6	3.6
Others	2	2.5	6	0.8	6	0.8	10	1.0	9	0.9	7	0.9	4	0.7	6	1.5	3	1.8
Prepare for meal																		
No care	36	45.6	391	52.6	281	36.7	302	28.9	199	20.2	118	15.3	94	17.4	80	20.1	98	58.3
P+MF+SF			1	0.1	4	0.5	15	1.4	20	2.0	24	3.1	19	3.5	11	2.8		
P	8	10.1	88	11.8	97	12.7	173	16.6	148	15.1	136	17.6	83	15.4	66	16.5	16	9.5
P+MF	5	6.3	20	2.7	33	4.3	92	8.8	110	11.2	92	11.9	66	12.2	51	12.8	2	1.2
P+SF			5	0.7	6	0.8	5	0.5	7	0.7	9	1.2	5	0.9	4	1.0	2	1.2
MF	25	31.7	201	27.1	302	39.5	386	36.9	432	44.0	335	43.3	221	41.0	148	37.1	39	23.2
MF+SF	1	1.3	10	1.4	15	2.0	32	3.1	30	3.1	23	3.0	32	5.9	29	7.3	4	2.4
SF	2	2.5	14	1.9	21	2.8	22	2.1	25	2.5	26	3.4	15	2.8	4	1.0	5	3.0
Others	2	2.5	13	1.8	6	0.8	18	1.7	12	1.2	11	1.4	4	0.7	6	1.5	2	1.2
All	79		743		765		1045		983		774		539		399		168	

P: Professional caregiver who is employed, MF: Main-family caregiver, SF: Sub-family caregiver

Tentative CL: category of care need people who could use services for Care Level people though they were certified as

SL: Support level, CL: Care Level, NA: Non Available

表 8. 要介護度別の月当たり自己負担額と家族介護量

		Care need level								
		Tentative CL	SL1	SL2	CL1	CL2	CL3	CL4	CL5	NA
Amount of family caregiving (per day)		(*1,000 yen)								
Almost all a day	Mean	0.7	0.9	0.7	1.0	1.6	1.9	2.8	2.5	3.6
	SD	0.9	2.0	0.6	0.8	2.6	2.0	5.1	3.1	6.5
	Min	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	25%tile	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	0.5	0.8	0.6	0.0
	Median	0.6	0.5	0.8	0.9	1.3	1.8	2.3	2.0	0.0
	75%tile	0.9	0.5	1.0	1.7	1.9	2.7	3.1	3.6	2.0
	Max	2.1	9.0	2.9	4.0	22.0	15.8	50.0	30.0	15.0
Half a day	Mean	0.2	0.8	0.6	1.3	1.1	2.1	2.1	3.2	0.9
	SD	0.3	1.2	0.5	3.1	0.8	1.8	1.4	2.9	0.8
	Min	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	25%tile	0.0	0.3	0.2	0.2	0.1	1.0	0.9	1.1	0.0
	Median	0.2	0.5	0.7	0.9	1.3	2.3	2.4	3.3	1.1
	75%tile	0.4	0.5	1.0	1.7	1.9	2.7	3.1	3.6	1.4
	Max	0.4	5.0	2.0	21.0	2.5	13.1	7.0	15.0	2.0
2-3 hours	Mean	0.6	0.4	0.9	0.9	1.3	1.7	2.4	2.9	1.3
	SD	0.6	0.8	1.8	0.8	1.8	1.4	2.0	2.7	3.7
	Min	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	25%tile	0.2	0.0	0.2	0.2	0.3	0.6	1.2	0.2	0.0
	Median	0.4	0.2	0.5	0.8	1.2	1.7	2.6	3.1	0.0
	75%tile	1.0	0.5	1.0	1.5	1.9	2.7	3.1	3.6	0.4
	Max	1.5	4.2	13.0	3.3	18.8	8.5	12.8	9.3	14.0
Sometimes	Mean	0.3	0.3	0.5	0.8	1.1	1.4	3.4	1.5	0.4
	SD	0.4	0.6	0.5	1.1	1.4	1.4	6.2	1.4	0.8
	Min	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	25%tile	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.4	0.5	0.0	0.0
	Median	0.1	0.2	0.5	0.5	1.0	1.3	1.9	1.1	0.0
	75%tile	0.6	0.5	0.9	1.3	1.8	2.5	3.1	2.3	0.0
	Max	2.0	5.8	3.3	16.6	13.8	10.2	30.0	4.5	2.4
Others	Mean	0.3	0.4	0.5	0.7	1.8	3.1	2.3	2.8	0.5
	SD	0.3	1.5	0.9	1.0	3.2	4.3	2.8	4.3	1.1
	Min	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	25%tile	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	0.5	0.1	0.0	0.0
	Median	0.2	0.2	0.3	0.4	0.8	1.8	2.2	2.0	0.0
	75%tile	0.5	0.5	0.8	0.9	1.9	2.7	3.1	3.6	0.3
	Max	0.9	22.0	8.2	11.8	15.0	15.0	15.6	20.0	4.2
NA	Mean	0.0	0.3	0.6	0.6	0.6	1.5	1.4	3.2	0.5
	SD	0.1	1.2	2.4	2.0	1.4	2.9	3.4	5.9	2.2
	Min	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	25%tile	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	Median	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	75%tile	0.0	0.3	0.2	0.5	0.7	1.5	0.0	6.0	0.0
	Max	0.4	11.2	18.0	17.0	9.0	10.1	15.0	30.0	15.0
All	Mean	0.3	0.4	0.6	0.8	1.3	1.9	2.5	2.7	0.8
	SD	0.4	1.2	1.1	1.3	2.0	2.2	4.1	3.7	2.6
	Min	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	25%tile	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	0.4	0.1	0.0
	Median	0.2	0.2	0.4	0.5	1.0	1.6	2.0	2.0	0.0
	75%tile	0.6	0.5	0.9	1.3	1.9	2.7	3.1	3.6	0.0
	Max	2.1	22.0	18.0	21.0	22.0	15.8	50.0	30.0	15.0

Tentative CL: category of care need people who could use services for Care Level people though they were certified as Support Level because of the revision of LTCI system in 2006

SL: Support level, CL: Care Level, NA: Non Available, SD: Standard Deviation

厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業））
分担研究報告書

性別・年齢別にみた聴覚障害者の健康特性に及ぼす影響に関する研究

研究分担者 田宮菜奈子（筑波大学大学院医学医療系 教授）
野口 晴子（早稲田大学政治経済学術院 教授）
研究協力者 小林 洋子（筑波大学大学院人間総合科学研究科 博士後期課程）
森山 葉子（筑波大学医学医療系 研究員）

研究要旨

近年、「障害者」の定義の捉え方、障害のある人々を取り巻く社会環境や障害環境についての考え方に大きな変化が見られている。我が国においては、政府統計において障害者の集計分析はされているものの、性別、年齢階級別等の諸要素と様々な要因との関連についてみた研究は不十分な点が多く、各障害者個々人の実態、そこから導き出される課題はほとんど明らかにされていない。ゆえに政策立案、社会一般の障害者観も実態に即していない可能性が懸念される。そこで、本研究では全国レベルのデータにより、我が国における聴覚障害者の健康特性について聴者との相違を明らかにすることを目的とした。具体的には、平成 19 年国民生活基礎調査を用いて聴覚障害者群と聴者群の違いを性別、年齢階級別に分けて基本属性、家族形態、経済状態、健康状態、生活習慣を含む背景項目との関連における比較検討を行った。

性別、年齢階級別に関わらず共通して聴覚障害者群に関連する項目としては、通院している、生活に影響がある、自覚的健康状態が悪い、悩み・ストレスを抱えている、精神的健康状態が悪いであり、いずれも健康状態が悪いことと関連していた。また、家族形態、経済状態、生活習慣については、性別、年齢階級別によって関連する項目が異なることが明らかになった。聴覚障害者群の方が、20～29 歳の男性は配偶者がいる、30～39 歳女性は配偶者がいない割合が有意に高く、20～29 歳女性は世帯人員 1 人の割合が有意に高いことが示された。年齢に関わらず女性は住居の種類において持ち家ではない割合が有意に高かった。経済状態において、30～39 歳男性以外はいずれも聴覚障害者群の方が国民保険に加入している割合が有意に高かった。30～39 歳男性、40～49 歳の男性、女性は、仕事がない割合が有意に高いことが示された。健康状態については、30～39 歳男性以外において性別に関わらず通院している割合が有意に高いことが確認された。また、30～39 歳男性のみ被用者保険に加入している割合が高かった。生活習慣において、喫煙している割合が 20～29 歳、30～39 歳の女性において有意に高かった。以上の結果から、我が国において聴覚障害者群は聴者群と比して、経済格差、健康格差があること、そして性別、年齢階級別によってそれぞれ関連する項目、傾向が異なり、多様性が存在するという実態が明らかになった。今後障害者施策を展開していく上で、聴覚障害者の社会参加拡大、OQL の向上実現、個々人それぞれのニーズに応じた支援の充実を図るためにも、障害をひとくりに捉えるのではなく、多様な特性その他心身の状態、ニーズの把握検討を続けていく必要があると考えられる。

A. 研究目的

近年、「障害」の定義の捉え方、障害のある人々を取り巻く社会環境や障害環境に

についての考え方に大きな変化が見られている。従来、世界保健機関（以下 WHO:World Health Organization）が 1980 年に提唱した国

際障害分類（以下 ICIDH、International Classification of Impairments, Disabilities and Handicaps）では、「機能障害」「能力障害」「社会的不利」の3つを障害者分類として表現していた。しかしながら「ノーマライゼーション」理念の浸透、障害者施策の改正等に伴い、「病因論」に基づく医学モデルを背景にしていたICIDHはマイナス的な視点のみであるため「障害」の定義に限界があると見なされるようになった。これを機にWHOは発想を転換し、2001年に国際生活機能分類（以下 ICF:International Classification of Functioning, Disability and Health）へと改訂した。ICFは人の健康・生活を包括的に捉えるために、視点を障害から「心身機能・身体構造」「活動」「参加」の3次元を含む生活機能に移し、これらの3次元と身体の変調または病気という「健康状態」、そして背景因子である「環境因子」「個人因子」が相互作用することで、ひとの健康状態を捉えることを基本的概念としている。障害を個人と環境の相互の関係としてみることで、できないというマイナス的な視点のみでなく、プラス的な視点も重視し補うことで、心身機能回復、活動や参加機能向上、環境調整のバランスによる包括的対処を特徴としている（障害者福祉研究会編 2002；障害保健福祉研究情報システム 2002）。

聴覚障害者は、ICIDHに沿って考えた場合、何らかの疾病・変調が原因で「聴力が落ちる・聴力を失う」（機能障害）、そのために「コミュニケーションがままならない」（能力障害）という日常生活や学習上の種々の困難な状況になり、そして機能障害、能力障害を抱えるがために「就職が難しい」というような社会的不利が生じるとされている。また、リハビリテーション医学的見地からは「聴力障害」になり（機能障害）、そのために「放置しておくと言語を獲得することができない」（能力障害）がゆえに、「テレビ放送に手話や字幕がなければ情報から取り残されてしまう」という社会的

不利が生じる（中澤 2011）。しかしながら、ICFでは、このような聴力の状態や、コミュニケーションの困難、生活・就労面を含む社会的不利について把握するだけでなくそれらに加えて、本人の意欲、信念、地域でのバリアフリー環境、周囲の人の意識・認識等を明らかにし、生活機能と障害に個人因子、環境因子がどのように関連しているのかを把握していく重要性が唱えられている。従来における医学モデルでは、障害とは病気や外傷、その他の健康状態が原因となって生じるもので障害を受けた個人の問題であり、病気や外傷などの治癒と障害を受けた個人の適応と行動変容という見方をされていた。ICFでは、医学モデルに社会モデルが加わる形で障害は個人の外部に存在する種々の社会的障壁によって構築されているものとし、障害の原因を適切に把握し、様々な障害の克服策を打ち出すためには、医学モデルと社会モデルの統合、言い換えれば「生活モデル」的観点が重要であると唱えている。社会的障壁には物理的なものだけでなく、情報や文化、法律や制度、さらには市民の意識上の障壁等も含まれている。ICFの考えの普及、多方面における活用に伴い、聴覚障害者の社会参加や活動を保障させるためには社会全体が障害を理解して制度や設備を整える必要性があると考えられるが、それを実現させるべく社会経済・心理行動学的観点からみた社会医学研究の重要性が今後更に高まってくるとみられている。

1995年に制定された障害者基本法は2011年に改訂されたが、第2条において「社会的障壁」という言葉が新たに追加され、障害がある者にとって日常生活又は社会生活を営む上で障壁となるような社会における事物、制度、慣行、観念等をいうと明記している。また、2006年に制定された「障害者自立支援法」は、2013年4月には「障害者総合福祉法」に転換された。本法では、共生社会の実現に向けて社会参加の機会の確保及び地域社会における共生、社会的障

壁の除去に資するよう総合的かつ計画的に行われることを掲げており、それを実現させるべく障害の多様な特性その他心身の状態、障害者等のニーズの把握の必要性を述べている（厚生労働省 2013）。

聴覚障害者は、全世界において約3億人（WHO 2013）いると言われている。我が国においては、身体障害者福祉法に基づき平均聴力レベルが70dB以上の聴覚障害者のみ身体障害者手帳の交付対象となり、聴覚障害者として認定されており、全国において約35万人程いると言われている。他に平均聴力レベルが40dBから70dBの難聴者、加齢による聴覚障害者も合わせると600万人いると推測されており、生活に支障をきたすと考えられているものの、身体障害者手帳交付対象にはならず、聴覚障害者として認められていない。欧米においては法的に40dB以上から聴覚障害者として認定されており、我が国における障害者への捉え方の希薄さが伺える。聴覚障害者・ろう者・難聴者・中途失聴者（Middleton 2009）等、聴覚障害者の定義、扱い方、見方は各国において異なり、それぞれきこえにくさの程度、障害発生時期、育った環境など特徴には多様性があり、一概に述べることは现阶段では難しい（高宮ら 2005）。また、聴覚障害者は生活していく中で、聞こえないなどの環境適応が生じ、独自の生活習慣、ルール、対人関係、対社会関係、世界観の形成を自然に生み出している（松岡 2013）。

聴覚障害の有無別にみた聴覚障害者の特性に関する先行研究について、まず海外における動向をみると、医療機関利用状況、疾病、精神保健に関する文献がある。聴覚障害者の医療機関利用状況について、Zazove et al. (1993) は、米国南東部ミシガン州におけるろう・難聴者関連団体に所属するろう・難聴者（87名）と同地域で地域医療を受けている聴者の患者（88名）を対象に筆記または手話による調査を実施した結果、聴者と比して聴覚障害者の医療機関利用割合が高かったことを報告している。

一方、Barnett et al. (2002) は、全米にいる聴覚障害者（2,718名）と聴者（49,546名）を対象に郵送式による国民健康調査（National Health Interview Survey）を実施、3歳以前に聴覚障害になった者（言語習得前聴覚障害）と3歳以降に聴覚障害になった者（言語習得後聴覚障害）に分けて分析、既存のデータと比較した結果、言語習得前聴覚障害者（平均年齢44.5±1.5）は、医療機関利用割合が低く他の言語的少数グループと同様な傾向を示したのに対して、言語習得後聴覚障害者（平均年齢70.0±0.4）は逆に医療機関利用割合が高く、慢性疾患患者と同様な傾向が見られたという結果を示している。また、英国において18～65歳の精神疾患のある患者のうち聴覚障害者（397名）と聴者（8,606名）の比較をした研究では、聴覚障害者は聴者と比して2倍入院する傾向があり、考えられる要因としてコミュニティサポート、リハビリテーションサービス・提供の欠如を挙げている（Baines et al. 2010）。

聴覚障害と精神保健の関連について、Graaf et al.(2002)は、オランダにいる聴覚障害者（523名、18歳以上）を対象にGeneral Health Questionnaire 12項目版（以下GHQ-12）、Symptom Checklist（以下SCL-8D）を使用、手話、または口話によるインタビュー形式で調査を行い、既存データにより聴者と比較した結果聴者と比して精神保健状態が悪く、考えられる要因にコミュニケーション障害、自尊心の低さ、聴覚障害であることへの受け入れができないことが関連していると報告している。また、言語習得前聴覚障害者と言語習得後聴覚障害者での比較では、言語習得後聴覚障害者の女性において精神保健状態が顕著に悪い傾向が見られた。Fellinger et al.(2005)は、オーストラリアにおける聴覚障害者（236名、平均年齢45.3±14.4）を対象に、World Health Organization's Brief Quality of Life Questionnaire（以下WHOQOL-BREF）、GHQ-12、Brief Symptom Inventoryの手話版

を用いた調査を行い、既存データにより聴者と比較した結果、聴覚障害者は精神保健状態が悪いと報告している。ノルウェーの聴覚障害者(431名、45歳以下の割合50.8%)と聴者(42,815名、45歳以下の割合49.1%)を比較した調査では、手話による Hopkins Symptom Checklist (以下 SCL-5) にて分析したところ、聴覚障害者は精神保健問題の兆候が見られる割合が高いと報告している (Kvam et al. 2007)。

生活習慣においては、米国南東部ミシガン州におけるろう・難聴者関連団体に所属するろう・難聴者(87名)と同地域で地域医療を受けている聴者の患者(88名)を対象に筆記または手話による調査を実施した結果、聴覚障害者の喫煙率は聴者より低い (Zazove et al. 1993) という報告がある。Barnett et al.(1999b)は郵送式による国民健康調査にて、全米にいる聴覚障害者(2,718名)と聴者(49,546名)を対象に、言語習得前聴覚障害と言語習得後聴覚障害に分けて分析した結果、言語習得後聴覚障害者(平均年齢 70.0±0.4)は聴者と差がないという結果に対し、言語習得前聴覚障害者(平均年齢 44.5±1.5)は教育歴が低く、経済状況が悪いにも関わらず聴者より喫煙率が低いという結果がでており、考えられる要因に文化的違い、筆記体によるタバコ広告へのアクセス制限を挙げている。

疾病においては、言語習得後聴覚障害者は死亡率が高い傾向で、自己による健康状態の把握力の弱さが関連しているのではないかと(Barnett et al. 1999a)という報告がある。上述したように、聴覚障害者の特性において様々な要因が関与していることが示されているが、それらの影響は研究の結果により一貫した見解が得られていない要因が多いのも現状である。

一方、国内文献においては、就労、医療機関利用状況、精神保健、喫煙に関して聴覚障害者と聴者を比較した研究がある。

まず就労に関しては、一般に障害者は聴者より就労率が低いと言われている

(内閣府 2012)ものの、聴覚障害に特化した研究報告は管見の限りでは石原(2009)による文献のみである。A大学に在籍していた聴覚障害卒業生(149名)を対象に転職に関する意識調査を実施、一般調査の結果を比較すると聴覚障害者は聴者より比して離職率は必ずしも高くないこと、もし転職するとして自分のキャリアや将来性をあげる割合が高いという結果を示している。

医療機関利用状況において、橋爪ら(1995)は東京都聴覚障害関連の団体に所属する聴覚障害者(126名、40~74歳、平均年齢54.6歳)を対象に調査を行い、既存データにより聴者との比較を行った結果、健診受診率は聴者と差がなかったものの、コミュニケーション方法や対応など聴者とは違った配慮が求められていると報告している。一方、高橋ら(2003)は東京都聴覚障害関連の団体の所属する聴覚障害者(151名、21~85歳、平均年齢54.8歳)を対象に調査を行い、既存のデータにより聴者と比較したところ、聴者より比して健康診断の受診率が低いと報告している。

精神保健との関連については、全国における難聴者・中途失聴者団体の活動に参加している難聴・中途失聴者(181名、年齢範囲21~80歳、平均年齢54.9±13.8)を対象に、General Health Questionnaire 30項目版(以下 GHQ-30)による調査を行い、既存のデータから聴者と比較検討を行ったところ、聴覚障害者は聴者より比して精神保健状態が悪く、その問題は聴こえの状態とは関連しないものの、めまい・耳鳴・言語障害の症状がある人程精神保健状態が悪くなると報告している(高宮ら 2005)。一方、吉田ら(2001)はA大学に在籍する聴覚障害学生(233名、18~19歳)と近隣する大学の聴者の学生(365名、18~19歳)を対象に、大学生健康調査(UNIVERSITYPERSONALITYINVENTORY、通常UPI)を実施したところ、聴者より精神健康状態がよいという結果がでており、考えられる要因に、聴覚障害による失感症

状のメカニズムによる見かけの精神的健康度の高さ、もしくはコミュニケーション障害により、言語の獲得が緩徐であるがゆえに質問の意味を十分に理解できていない可能性をあげている。

生活習慣においては、A大学に在籍する聴覚障害学生（126名）を対象に、既存のデータから聴者と比較検討を行ったところ、聴覚障害者の喫煙率は聴者より低いという報告がある（及川ら 1998）。医療機関利用状況、精神保健においては、様々な項目が関与していることが示されているが、それらの影響は研究の結果により一貫した見解が得られていない。

上述したように、海外を含む我が国において多様な年代、環境におかれている聴覚障害者の基本属性、経済状態、健康状態、生活習慣等を含む特性についてみた先行研究では、研究者により検討する項目、研究方法が様々であり、それらの影響は研究の結果により一貫した見解が得られていない項目・要因が多いのも現状である。これらの結果の違いには、調査対象の地域、調査時の使用言語、聴覚障害の属性の違いが関連していると考えられる。また、性別、年齢階級別にみた研究はまだ不十分な点が多い。特に我が国においては、政府統計において障害者の集計分析はされているものの、性別、年齢階級別等の諸要素とのクロス集計が乏しく、障害のある男性、女性それぞれの実態やそこから導き出される課題はほとんど不明であり、結果的に政策立案、社会一般の障害者観にも強く影響していることが考えられる（臼井ら 2012）。聴覚障害者のQOLの向上実現、個々人それぞれのニーズに応じた支援の充実を図るためにも、性別、ライフステージ別にみた多様な特性その他心身の状態、障害者等のニーズの把握、情報の整理が課題となっている。

そこで本研究では、従来各障害を基準にひとくくり捉えられてきた聴覚障害の実態について、その多様性を明らかにすることを目的とした。具体的には、全国レベル

の調査のデータから、加齢による聴覚障害を除く成人を対象に、基本属性、家族形態、経済状態、健康状態、生活習慣を含む背景項目を調査し、聴覚障害者群と聴者群の違いを性別、年齢階級別にみることを目的とした。この結果は、社会的ニーズに対する問題および今後の課題を聴覚障害者の視点から検討し、障害者施策を展開していく上で有用な基礎資料になると考える。

B. 研究方法

（1）調査対象

本研究は全国の世帯及び世帯員を対象とし、「平成19年国民生活基礎調査」（厚生労働省大臣官房統計情報部）により調査を実施した。「平成19年国民生活基礎調査」は【世帯票】【健康表】【所得表】【貯蓄表】で構成されており、保健、医療、福祉、年金、所得等の国民生活の基礎的事項の調査を目的としている。国民生活基礎調査の【世帯票】【健康表】個票および【所得表】個票データ有効回答者数(N=624,178)から研究対象者を選出した。【世帯票】及び【健康表】については5,440地区内のすべての世帯(約29万世帯)及び世帯員(約76万人)、【所得表】については、前記の5,440地区に設定された単位区から無作為抽出した2,000単位区のすべての世帯(約4万世帯)及び世帯員(約10万人)を調査対象とした。加齢により聴覚障害になる文節点の年齢が50歳～60歳あたり(山崎1996)ということを検討し、聴覚障害の有無別における度数分布を求め、既存する聴覚障害の統計と同様な傾向がみられるかどうか確認を行った。その後、自覚症状有効回答者(N=585,612名)のうち、50歳以上は分析対象から外し、20歳以上50歳以下の回答者に絞り209,745名(33.6%：全体における有効回答者に対する20歳以上50歳以下回答者の割合)が最終的な分析対象となった。

（2）分析方法

（ア）従属変数の設定

本研究は、聴覚障害の有無を従属変数と